

市民意見の聴取に係る各種施策の結果について

- 1 市立中学校生徒会役員と市長との懇談会**
- 2 市民ワークショップ**
- 3 市民懇談会**
- 4 市民意見・提案の募集**

市立中学校生徒会役員と市長との懇談会

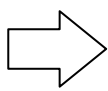
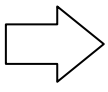
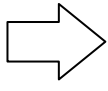
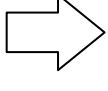
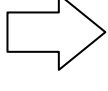
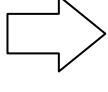
日 時 平成 22 年 2 月 1 日（月）午後 3 時 30 分～午後 4 時 40 分
場 所 昭島市役所 庁議室

1 懇談会の趣旨

第五次総合基本計画の策定に際し、中学生の意見を将来の市のまちづくりに生かすため。

テーマ：「人間尊重・環境との共生」

2 中学生からの提案

環境フェスタに参加し“昭島の豊かな水”の認識を新たにした。		子どもたちにも、水の大切さを教えていく。
地球温暖化防止運動に協力できるよう働きかけをする。		①こまめな消灯と設定温度調整のよびかけ ②自転車や公共交通機関の使用促進のよびかけ ③家庭ごみの排出量抑制のよびかけ ④各教室に二酸化炭素吸収量が多い多肉植物やシクラメンを配置。
地球環境に関心があるが、ごみの分別方法など、それに対する知識があまりない。		環境問題を知り、昭島市全体で取り組めるまちづくりを提案したい。
地域清掃している周りではポイ捨てがされている。		助成金を支出し、地域清掃する人・場所・機会を増やす
ヒートアイランド現象の悪循環を抑制する。(緑や遊び場が少ない。)		大きな芝生のある公園を造る。(小さな子どもは安心して遊べ、中学生はスポーツができる。)
昭島市は自然豊かな場所だが、ポイ捨てされたゴミが目立つ		ポスターを貼ったり、積極的に環境を汚さない工夫をしてほしい。

4 懇談

【市長の話】

吸い殻のポイ捨て問題は、清掃中の傍らにはポイ捨てしないとの話もあったが、罰則で取り締まるのではなく、地道な啓蒙活動で、捨てにくい環境を作ることも大事です。

自助・共助・公助の話をしたが、生徒会活動はもちろん、地域活動等にも参加し、地道な努力・実践活動を続けることで、周りの生徒や市民に良い影響を与えてほしい。

【教育長の話】

挨拶を大切に、きれいなまちにしたい気持ちがヒシヒシと伝わり、非常にうれしい。

【企画部長の話】

人間尊重と環境との共生は、今後も大切な理念であり、意見を参考に計画を作りたい。

皆さんの頑張りを見て、周りの生徒が頑張りますので、引き続き頑張ってください。

【市長の話】

第四次計画の将来都市像は「人 まち 緑の共生都市あきしま」で、その中では「触れ合い、支えあい、学びあい、守りあい、築きあい」の5つのキーワードでまちづくりを進めていくことを謳っているが、このことは「人間尊重」の精神にも繋がる。

米の漢字は「八」、「十」、「八」と書く。88の手間をかけてできた「一粒のコメや食べ物を大切にする。」感謝の心を大切にするとともに、料理でもスポーツでも、1つのことに一生懸命取り組んでもらいたい。一生懸命に取り組むためには創造性や努力が必要で、勉強にもなるし、一緒になってやれば良い友達もできる。

生徒会の役員として、中心になってやってきたことは、良い社会勉強として、将来の皆さんの立派な成長に大きな力となって生きていると思います。期待しています。

5 木戸教育長のことば

努力は絶対にあなたたちを裏切りませんので、今日のことを忘れずに、努力に努力を重ねて、立派な成長を遂げていただきたいと思います。

第2回 市民ワークショップ開催結果



お問い合わせは、こちらまで
昭島市 企画部 総合基本計画担当
電話：042-544-5111 (内線 2397)



昭島を元気にするには？

まちづくりの指針である「第五次総合基本計画（基本計画）」の策定に向けて市民ワークショップが開催されました！

第五次総合基本計画の策定に向け、広く市民の意見をお聴きするため、2月14日（日）に市役所市民ホールで第2回市民ワークショップを開催しました。

今回も“無作為抽出の市民によるワークショップ”という市民参画の手法を採用し、16歳以上の市民1,000名の方を無作為で選び、第1回の参加者にあわせ参加を呼びかけました。当日は34名の方に参加していただき、活発に討議していただきました。

今回のワークショップでは、総合基本計画審議会で「第五次昭島市基本構想素案」が取りまとめられたことを受け、素案における昭島市の将来都市像「ともにつくる 未来につなぐ 元気都市 あきしま ～人も元気 まちも元気 緑も元気～」の実現に向け、「あきしまを元気にするには」をテーマとしました。ワークショップの結果は裏面に取りまとめています。



～～～ 当日のプログラム ～～～

時間 (午前)	内容	時間 (午後)	内容
9:30～10:00	受付	13:00～13:30	〔講演〕 平石 正美氏 (国士舘大学政経学部教授) による講演
10:00～10:30	開会 主催者挨拶 講師紹介・挨拶 趣旨説明 討議の進め方説明	13:30～13:35	討議の進め方説明
		13:35～15:00	グループ討議② (午前の討議を参考に「昭島市を元気にするには？」)
10:30～11:50	グループ討議① (「昭島市の元気なところ」 「元気のないところ」)	15:00～15:10	休憩
		15:10～15:34	グループ検討結果発表
		15:34～15:55	講師講評
11:50～12:14	グループ検討結果発表	15:55～16:00	市長挨拶
12:15～13:00	昼食／休憩	16:00	閉会

～～～ 講演 昭島市を元気にするための視点！！ ～～～



もし、地域社会に協働がなかったらどうなるのか…

社会関係資本の社会的効果とは…???

午後の話し合いの参考として、国士舘大学政経学部教授 平石 正美氏による講演がありました。

【元気の共通項】

- ① 危機感を共有すること
- ② 自分自身が楽しんでいること
- ③ 自分たちで問題解決しようとする自発性とその組織力

参加者から寄せられた感想

《市民ワークショップに参加して…》

- ・市民ワークショップは、いろいろなテーマでジャンジャン開催して欲しい。
- ・昭島を大切に、誇りを持って暮らしていきたいと思いました。
- ・先生の講演がとても興味深く聞かせていただきました。
- ・大人だけでなく、中学・高校生も入れた方がよいと思う。 など

今後の取り組み

市民ワークショップの結果については、市民参画によりまとめられた、まちづくりに関する市民の意見として、総合基本計画の検討を進めている昭島市総合基本計画審議会に報告し、計画審議の参考資料として役立てていきます。



午前のテーマは、「昭島市の元気なところ」と「元気のないところ」

午後のテーマは、午前の話し合いや講演の情報をもとに、「昭島市を元気にするには？」 それぞれのグループが話し合った結果は・・・？

元気なところ

元気のないところ

元 気 に す る に は ？・・・

Aグループ

- ・人口が増えている
- ・病院（医療）が多い
- ・道路が整備されてきた
- ・高齢者が元気にウォーキング（ゲートボール 等）
- ・古さと新しい など

- ・玉川上水や多摩川沿いなどウォーキングに適した環境を、うまく活用していない。
- ・一人暮らしの方へのケア
- ・東中神の個人店舗がなくなってきている

Bグループ

- ・自然環境がよい
- ・水がおいしい
- ・地域活動が活発なところもある（NPO、くじら祭り、産業祭）
- ・交通の便が良い（都心まで近い、駅が多い） など

- ・自己中心的な人が多く、コミュニケーションが不足している
- ・子どもを取り巻く環境が十分とは言えない（児童館が少ない）
- ・昭島の良いところのPRが下手 など

Cグループ

- ・自然がほどよく残っている
- ・ベッドタウンとしてよい
- ・静かなまち 住みやすいまち
- ・水がおいしい
- ・まちの外への交通はいい（JRを核とした、都心へのアクセス性）

- ・まちの整備が進んでいない
- ・まちの中の交通アクセスがダメ
- ・世代間の交流が少ない など

Dグループ

- ・地域活動（祭り・自治会等）が活発
- ・子ども（幼児・小中学生）を守るボランティア活動が活発
- ・すぐれた住環境下にある
- ・スポーツ活動が活発 など

- ・交流が少ない（先住民と新住民、外国人と日本人）
- ・自治会活動に消極的
- ・子どもが少ない、子育て・生活環境が不十分 など

Eグループ

- ・シニアが活発で良い
- ・子どもが元気にのびのび
- ・木とお花がきれい
- ・人が集まる商業施設
- ・まとまっていて、自転車で生活しやすい

- ・図書館、公園の使い勝手が悪い
- ・道路の整備が遅れている
- ・市民同士の交流の場が少ない（NPO）
- ・「昭島の森」と威張って言えるモノがない など

Fグループ

- ・自然・水・バリアフリー
- ・元気の目が育つ
- ・交流が育てば、元気の目が育つ

- ・行政からのPRがへた
- ・人を育てる元気に欠ける
- ・市民からのアクションがない
- ・教育・教養づくりのための予算確保ができていない など

- 1 スポーツで活性化する昭島
 - 2 自治会が元気な昭島
 - 3 子育てしやすいまち昭島
- 若者が積極的に参加できるスポーツを活性化すれば、地域のネットワークやコミュニケーションが充実するのでは。そのための人材作りと、活動する人たちを支える仕組みをつくるのが大切。それが地域活動の活性化につながり、ネットワークを活用して子育てのしやすいまちにつながる。

市長さんに提案！（要望ではなく提案です。一方的にお願いするのではなく。私たちががんばります。）

- 1 子どもたちを元気に！
元気のいい、一生懸命やってくれる先生により、他校のお手本となるようなコミュニティスクールを創り、そこが核になって子どもたちが元気に成長していく。
- 2 地域を元気に！
①子どもたちを取り囲む地域も元気でなくては。公共施設などを活用して、このワークショップのような気軽に話せる場を確保して、地域のなかで市民が気軽に意見を言えるような環境を創っていききたい。
②仕事は定年を迎えても、いろいろと技術や経験を持った方が地域にはたくさんいる。その方たちを活用していけるような場が設けられたら良い。
- 3 商店会を元気に！
① 昭島版「道の駅」を創ってはどうか。 ② 商店会に人を呼ぶため、周辺に無料駐輪場・駐車場を整備

結論としては、「外から人を呼ぶ」これが元気になるポイント。そのためには、まちの魅力づくりが大切 ～緑の風を感じるまち～を目指す。外から人が来れば、産直などで物が売れる。歩道なども整備されていいまちができる。

- 1 自転車の活用をはかる
①サイクリングロード（玉川上水、多摩川・街を活かした）の整備 ② エコ・健康に貢献 ③ 家族で参加できるロードレース大会の開催
- 2 複合施設（観光、健康、スポーツ施設）の整備
温泉と図書館の複合施設をサイクリングロード沿いに整備して、サイクリングのあと温泉で汗を流し、図書館で頭も鍛えては
- 3 公園の魅力アップ
①昭和公園の名称を変更しては（昭和記念公園との差別化） ② 市民球場も整備されたのでスポンサーを探しては

- 1 自治会の活性化をはかる。
① 自治会でこのようなワークショップ開催しては。 ② 自治会活動に面白みを増やす
- 2 老若男女、外国人、企業勤労者など交流の機会を増やす
① お年よりは学童保育へ自由に参加できるようにする。
② くじら祭りなどに外国の方に店を出店を出店してもらっては
- 3 各種市民イベントの充実と広報活動の促進
① 市民活動の発表の場としてイベントを充実させる
② 広報誌及び市HPの活用により、市民の活動をみんなに知らせることが大切

- 1 昭島を有名にする（これが結論!!）
そのためには、① くじらサミットの実施 ② 水道水日本一コンテストを開く ③ 新しくなった市民球場で少年野球の全国大会を実施 など検討しては。
- 2 子どもと高齢者が幸せになれるまちを目指す。（そうすれば必ず元気になる。）
① みんなのつながりや思いやりが大切。みんなであいさつをしよう ② 電柱を地中化してまちを美しく
③ 歩道をもっと安全にして、自転車と車が安全に共存できる道を目指す。
- 3 高齢者の活用をはかる
お年寄りが元気で活動できる場所が必要!! いろいろと技術を持った高齢者の活用をはかるため、地域で人材バンク的な活動があると良い。自治会活動など、地域に密着した活動を充実させることも大切

- 1 ホームページの充実をはかる。
① 市民生活に直結した ② 具体的で見て楽しい ③ 体系的で探しやすい ホームページの実現
最初は行政で手がけていくが、市民との協働により、市民のグループやボランティアが協力して充実させていく !!
- 2 予防医学、健康づくりの実現
元気になるためには健康が大切、予防・健康づくりを充実させる。
- 3 地域サークルづくりとそのネットワーク化
①地震対策のサークルとか環境やエコに関するサークルなど様々なサークルが地域にあって、それが連携していく
②行政の活動ともリンクして、また若者、中学生や高校生も参加して、ともに活動ができる交流の場となる。



昭島市 市民懇談会 報告

1 目 的

第五次基本計画の策定に関し、計画が市民の意見を反映した、市民と行政の共通の目標となるように、幅広く市民の意見を聴く。

2 実 施

日 程	会 場	参加者
平成 22 年 2 月 12 日(金) 午後 6 時 30 分～	市役所市民ホール	18 名
平成 22 年 2 月 15 日(月) 午後 6 時 30 分～	市民交流センター 講習室	5 名
平成 22 年 2 月 18 日(木) 午後 6 時 30 分～	緑会館第 1・2 集会室	25 名
平成 22 年 2 月 19 日(金) 午後 6 時 30 分～	武蔵野会館集会室 1・2・3	26 名
平成 22 年 2 月 22 日(月) 午後 6 時 30 分～	公民館 3 階学習会議室	15 名

3 市側の出席者

市長、副市長、教育長、企画部長及び総合基本計画担当主幹（司会）

4 進 行

市長のあいさつの後、司会から総合基本計画素案の概要を説明し、質疑応答の形式で参加者の意見を聴く。

5 意見・回答

(1) 第 1 回 市役所市民ホール

意 見	市側の回答
第四次基本構想の理念や目標の達成度をどのように考えているか	理念（人間尊重・環境との共生）の達成度を出すのは難しいが、理念については、第五次計画にも引き継ぎ、より推進していこうとしている。また、50 の政策指標値など目標の達成度は十分に検証し、第五次計画につなげて行きたい。
安全・安心は大切なカテゴリーであるが、平和についてはどのように盛り込まれるのか。	平和の問題は大変重要である。理念の前提として平和を掲げるとともに、非核平和都市宣言の趣旨を生かした施策の推進を掲げている。
第四次計画を採点すると、市長は何点ぐらいだと思うか。	第四次計画を基本として、実施計画などにより予算に基づいた事業実施を図ってきており、着実に事業は進み達成度は上がっているが、なかなか自分で評価するのは困難である。
市の組織の中で計画が理解されていない部分があるように感じている。	基本計画の策定にあたっては、組織全体で取り組んでおり、I C T の活用により、情報の共有化は前計画策定時より進んでいると理解している。引き続き、計画の行政内部での共通理解に努めて行きたい。
理念や構想がそう大きく変わるとは思わないが、第四次計画で積み上げたものが次の計画でどのように発展するのか、メリハリのあるイメージを示すことが必要ではないか。	少子・高齢化の進展や、安全・安心への意識の高まり、環境や地方分権の問題など、前計画から引き継ぎつつ、新たな計画の重要なポイントとなると認識している。

地域コミュニティをどのように広めていくのか。	自治会が地域コミュニティの核となるとともに、環境や福祉、教育などの分野に特化した新たなコミュニティの形成もサポートしていく。団塊の世代が地域に帰ってくることを生かして、地域での活動につなげて行きたい。
基本構想・基本計画に関する市民懇談会も大切だが、実施計画についてもっと市民と行政が密に話し合えることが大切ではないか。	さまざまな手法を活用して、できる限り話し合う機会を持ち、今後の計画作りに生かして行きたい。
施策の大綱の部分で、第四次計画との大きな違いは。	環境の分野で、地球環境の項目を追加している。
多選択社会という言葉が出ているが、どの分野でそうなと考えているのか。	中心となるのは施策の大綱の前半部分1～3の分野となるが、ある程度すべての分野に関連するものと考えている。
青梅線の南と北に同じ町名が残っているがこれは統一するのか。	少しばかり時間はかかると思うが、住居表示の実施により解決すると考えている。
団塊の世代の話があったが、会社と自宅を往復していた人をどのように地域に連れ出すのか。	そのような方が地域活動へ参加するバリアを取り除き、機会を提供していくことが大切で、これからの課題と認識している。
学校区と自治会の区域が融合できればコミュニケーションがとりやすいのではないか。	以前からご意見を頂戴しているが、ご指摘として受け止め、できるところから取り組んでいければと考えている。
水と緑のまちづくりに力を入れているが、農地は減ってきている、災害時の避難場所としての活用も含め、どのように考えているのか	大都市近郊のジレンマではあるが、農地・緑の確保は大変重要な課題であり、計画の中でも具体的に位置づけて行きたい。
市債の発行も何十億とあるようだが、市の財政の先行きはどうなのか。	市債、市の借金は地方の自治体と比べればかなり低いレベルにあるが、安心しているわけではなく十分に注意していかなければならない。また、多様化する市民要望にすべて応えていくことは現実として困難ではあるが、基金の活用なども図り、身の丈にあった財政運営を続けて行きたい。
市民主体による協働のまちづくりがうたわれているが、自治会の組織率も50%を割っている。未組織の対策にどのように取り組んでいくのか。	実態については十分承知をしている。市民意識調査などでは、きっかけがあれば地域活動に参加したいという市民もかなりいる。どういう情報を提供していくのがいいのかなど考えて行きたい。
自分としても高齢となり、将来には不安がある。老人ホームなどにはなかなか入れないと聞くと聞くと、その対応は。	基本的には今ある福祉の制度の中で対応していくのだが、それだけでは十分ではない実態も承知している。福祉の分野では、市民全体による協働のまちづくりで対応していくことが非常に重要である。制度だけでは対応しきれないそうした問題についても計画の中に位置づけ対応して行きたい。

(2) 第 2 回 市民交流センター

意 見	市側の回答
会場の交流センターは、老朽化が進みエレベータもない。冠婚葬祭が可能な施設へのリフォーム等はできないか。	耐震化の関係もあり、エレベータだけではなかなかいかない。現状は認識しており、ご意見は受け止めさせていただく。
学校の耐震化は進んでいるのか。	平成 23 年度にはすべて完了する予定である。
学校の次はその他の公共施設となるが、交流センターの考えは。	交流センターでは、エレベータの外付けは建築基準法上難しい、耐震化を含め、現状では建替えとなると考えているが、中身については市民の意見を聴きながら再検討する必要がある。
市民球場の工事が進んでいるが、木をたくさん伐採した。地下駐車場にすればこのようなことは必要なかったのでは。	いろいろと検討したが、地下駐車場は資金が必要で、財政的に無理であった。樹木については、再生可能なものは再生し、切った木はチップ化などにより公園内で活用を図るなど一定の対応はさせていただいている。
市民球場への東中神駅からの導線はどうするのか。歩道が狭い部分もあり、また、着色による誘導などを検討しては。	迷うことなく誘導できるようなサインは検討したい。歩道については、交差点の人だまりも含めて拡張していく計画である。
立川基地跡地の開発で、市民が気軽に使えるようなスポーツ施設を整備しては。	青梅線の北側地域への子ども広場のような施設整備の要望は高い。開発関連では調整池の上部を運動施設とする計画がある。また、法務省の施設、体育館や武道場などの土日の一般開放も予定されており、市としても期待している。
消防署の前の通りの歩道は、桜の木が通行の邪魔となっているが。	公園の内側に迂回路を設置している。
青梅線の北側に築地町の町名が残っているが、これを残していく考えは。	住居表示の考え方の中で新たな町名も決まっており、現時点では難しい。
昭和公園の相撲場はどうなるのか、また、小動物園は、ウサギ程度しかいないが。	昭和公園の整備は 3 期に分けて実施する計画で、野球場はその第 1 期の整備であり、第 2 期がテニスコートや相撲場、小動物園など、そして第 3 期が陸上競技場となっている。財政状況から第 2 期の着手には一定程度時間が必要とも考えているが、実際に整備する段階で市民の意見を聴きながら、検討して行きたい。
多摩川でのスポーツやサイクリングが盛んだが釣りをする人がいなくなった。これは今、川が死んでいるからであり、何とかしなくてはいけない。市内の貴重な資源として、くじらなども活用し、人を集めていくことができないか。	東京都もダムからの放流を湖水面に近い温かい水とするなど工夫しているようだ。生態系の保護という規制もありなかなか難しい面もあるが、釣りはもちろん、やすらぎが感じられるような空間として行きたいと考えている。
来年は、くじら発見から 50 年となる。昭島の歴史をよく知らない市民も多い。観光という面でも「昭島新発見」のような企画はできないか。	観光は、第五次計画で新たに取り入れて行こうとしているキーワードの一つである。昭島にたくさんの人が来てくれるように、昭島の魅力を適切に伝えて行きたい。

(3) 第3回 緑会館

意 見	市側の回答
第四次計画の検証は、できたこと、できなかったことを教えて欲しい。	計画の進捗状況については、担当課とヒアリングを行い、その検証に努めているが、結果については計画に反映して行きたい。なお、第四次計画では、50 の指標値を設定し、その進行管理を行っている。現時点で達成した指標は 12、半分以上達成できているのが 20、達成度がかなり悪いのが 4 となっている。
基本構想には、具体的な懸案事項などの記載がないので実感がわからない。	まちづくりの方向性を示すという基本構想の性格からやむを得ない面もある。これから策定にあたる基本計画ではもう少し具体的なものが示せると考えている。
横田飛行場の飛行機が訓練なのか、連なって飛行するのは何とかならないか。	基地の問題は重要であると認識しており、国にもさまざまな機会をとらえ、騒音の削減などの要請を行っている。
学校と自治会が協働で防災訓練を実施できないか。他市では実施しているとの話も聞く。	学校では月に 1 回防災訓練や交通安全教室などを実施しているが、カリキュラムに余裕がなく、合同の実施を授業に組み込むのは困難性もある。地域とのつながりということであれば、ふるさと祭りの実施なども地域と共同で行っている。
学校からは地域の行事に参加したいとの声も聴くが。	地域清掃や美化活動などに参加している。地域活動への参加については、校長会などで話して行きたい。
昭島では、観光資源の活用がうまくいっていないように感じるが。	観光については、検討委員会を組織して検討を進めているが、既存の観光資源の活用は重要である。市民の意見を聴きながら、都市近郊型の観光のあり方について検討を進め、昭島にふさわしいものをつくって行きたい。
拝島駅周辺の開発について、人と人の結びつきが薄くなっている時世であり、いこいを感じられる公共施設の充実を図って欲しい。	駅の南側は、昔から住宅が建て込んでおり、まちづくりがなかなか進まず、公共施設が足りないとの認識はある。財政面から制約もあるが、検討して行きたい。
多摩川を歩くと福生市域との差が目立つ。特にトイレ。観光で人を集めるにはインフラの整備も必要では。	福生は基地交付金の額が違い、財政的には豊かな面もある。財政の制約はあるが、やすらぎとうるおいを与えるような整備が必要であるとの認識は持っている。
文化や伝統について、大綱に盛り込んで、他市では資料室などを整備しているが。	旧郵便局の跡地に社会教育センター整備の構想は持っている。今後とも財源の確保に努めて行きたい。
平成 32 年度の想定人口 11 万 5 千人の根拠は。	一定の方式により人口推計を実施した結果である。
多摩川については、国の計画で自然保護地域となっており整備が難しいと聞いているが、国にも働きかけ市民が憩う場の整備をして欲しい。	ご指摘のとおり国の計画で生態系の保持空間と位置づけられ、なかなか開発は難しい。引き続き市民要望に基づいた要請を行って行きたい。

春の多摩川一斉清掃と秋の市内クリーン運動の日程を合わせて、市域全体で実施し、地域の連携につなげては。	それぞれの参加団体による対応もあり、市内クリーン運動もその日ではなく別の日程で実施する団体もある。それぞれの自治会の工夫で対応をお願いしたい。
道路整備が進み便利になってきたが、逆に渋滞など障害となっている部分もある。地域の環境整備として近隣自治体と連携して解消にあたっては。	渋滞解消などに向けた交通体系の整備は、周辺自治体との協力がなければ実現できない。一つずつ解決に向け努力して行きたい。
拝島駅のまちづくりは、住民の参加と協力により進められている。補助金などの動向も聞こえてきているが、「ぶらぶら歩きが似合う拝島」として、できる限り早い整備を実現して欲しい。	市としては、国の交付金制度を主要な財源としてこの事業を進めている。国の補助がどうか見えてこないなかではあるが、市の施策として重要な位置づけにある事業であり、できる限り頑張っていきたい。拝島駅前のまちづくりは、住民の協力なしには実現できないので、ぜひともよろしく願います。
市民との協働による優しさのあるまちづくりを進めていくことが大切である。ボランティアによる家庭用火災報知機の設置の話もあるが、そのようなことなら自分にもできる。これからのまちづくりのキーワードとなるのでは。	非常に貴重な、また、うれしいご意見である。これからのまちづくりとして協働は重要な概念であると認識している。
下水道の污水管の整備は終わっているようだが、雨水管の整備についてはどうなっているのか。	国の補助金を財源として整備に当たっているが、今しばらくは時間がかかると考えている。
中神地区以外に区画整理事業など、面的なまちづくりの計画はあるか	現時点では中神地区以外の計画はない。
財源の確保について、財政調整基金はどうなっているか。	税金や補助金などを財源とし事業を行うが、足りない分については、財政調整基金などの貯金によりまかなっている。少子高齢化の進展などにより、この貯金も厳しい状況にあるが、財政改革を進め、無駄を省き財源の確保に努めたい。
農業や環境の分野において、家庭菜園として緑地を確保する考えは。	現行の税制度では、なかなか土地を市民農園として提供してもらいづらいが、検討して行きたい。
シルバー人材センターを拡充して、まだ働ける人に就労の場を提供しては。	市としても自転車駐車場の管理や、広報誌の配布などをお願いしている。今後ともシルバー人材センターの活用をお願いして行きたい。
各種の団体を活用して計画を推進していくべきでは。	当然のことと認識している。さまざまな組織が連携し、取り組むことが必要で、そういうことも計画に盛り込んでいく。
周辺自治体との連携で成果があった事例があれば知りたい。	最近の事例では、拝島駅の自由通路が上げられる。福生市との連携事業で費用も一部負担してもらっている。これからのまちづくりは、関係機関との連携により進めていくことが重要となる。基本計画でもその点は位置づけていきたい。

(4) 第4回 武蔵野会館

意 見	市側の回答
自分は商人で商業振興に関心があるが、審議会に商業関係の方はいるのか。	商工会や青年経営者クラブの代表、また、個人で商店を経営している人も参加している。
商工会の中には商人的な感覚で企画・立案する人材が不足している。観光協会が起爆剤ともなるが、計画にきちんと位置づけて欲しい。	産業の活性化を図り、まちを元気にしていくため、人材の育成は非常に大切である。また、観光協会は魅力あるまちづくりに向けての転機ともなるので、しかるべき対応を検討して行きたい。
体育館でダンスの利用ができないのはなぜか。	スポーツセンターが利用できないのは知らなかったので、調査してみる。
第四次計画に法務省施設の誘致について記載されているのか。	立川基地跡地の開発については記載があるが、具体的なものはない。
小学校の施設は有償で借りているのか。	法律の規定（人口急増地以外は有償）に基づき有償で借りているが、無償化に向けた要請は継続している。
市民球場に 14 億円、そのオープニングセレモニーに 800 万円かかるというのは本当なのか。	全体で 14 億程度の予算となっているが、7割程度は国や都の補助を受けている。また、オープニングセレモニーは 500 万円ほどで、これにも補助がある。
情報は伝える人によってなかなか正確には伝わらない。実情は理解したが、市としても正確な情報を速く出してもらいたい。【意見】	
東中神駅の北側の開発についても情報が錯綜している。市できちんとした情報を出して欲しい。【意見】	
先日、J Rで東中神駅の工事を実施したが、ここの整備はしばらく先になるのか。	J RはJ Rとして必要な工事を実施したもので、市としては開発計画に合わせて、駅舎の橋上化と自由通路の整備を考えている。
北口には大きな病院もある。踏み切りで行き来するようなまちはすたれる、早期の整備を期待する。	北口改札の常時開設に強い要望があることは認識している。できる限り近いうちに実現できるように努力して行きたい。
立川基地跡地の開発は、昭島市として大きな課題になると思う。北口には銀行や図書館などの公共施設がない。ぜひとも市民のためになる開発を実現して欲しい。	立川基地跡地の利用については、さまざまな機会をとらえて要望しているところであるが、市民の皆様とも議論をしていかなければならないと考えている。
施設などの整備が進まなくとも計画にある道路は整備されるのか。	計画で十文字に交差する道路、これは東京都が整備する計画だが、都としても優先的に整備する道路として指定されている。当然整備されるものと考えている。
以前、多目的広場を設けるという計画があったが。	下水道処理施設の上部をスポーツ公園とする計画があったが、下水道施設自体の計画がなくなっている。なお、整備にあたっては無料開放的な公園施設の整備を検討している。
地域の高齢者でグランドゴルフが盛んである。グランドゴルフが実施できる多目的広場を整備して欲しい。	子供向け広場やお年寄りのスポーツの場所などの要望があることは理解しており、機会をとらえて要望もしている。全体の計画の中でどのような対応ができるか検討して行きたい。

体育館を新たに整備する計画は。	市としては、総合スポーツセンターとみほり体育館で運営していく考えで、計画はない。
陸上競技場を公認グラウンドにする計画は。	陸上競技場の整備は、昭和公園の第3期の整備計画となっている。財政状況からまだ時間がかかると考えているが、実際に整備する段階で、利用団体などの意見を聴き検討して行きたい。
総合スポーツセンターの使用料に市民と他市の利用者で差をつける考えは。	今後検討する必要があると考えている。なお、市民球場の使用料は市民とそれ以外で差を設けている。
くじら公園は現在無料で利用しているが、有料化の考えは。	敷地を国から借用しており、現時点でその考えはない。
青梅線をはさんで南北で同じ町名がある。住居表示の計画は。	区画整理事業に一定のめどが立たないと住居表示ができない。今しばらくお待ちいただきたい。
ゴミのポイ捨てについては、自治会で回収などもしているが、市が回収すると放置を許すようなことにもなる。どうしたらよいものか。	一時期よりは減ってはいるが、非常に悩ましい問題である。常態的にあるようであれば、地域とも相談しながら対応を検討して行きたい。
昭島は水がおいしい。水を大切にして、観光資源にもなるのではないか。	地下水 100%による給水を続けて行きたいと考えている。昭島の宝として明確に位置づけて行きたい。
昭島の宝である水を売っていく考えはないか。	水の需要によっては都から水を引く必要もあり、その設備の準備も都にお願いしている。他の自治体はその費用も含めて負担しており、他の理解を得ることが難しいし、負担の話が再燃しかねない。そのようなことから現時点では売り出す考えはない。
今度の計画が前とどう違うのかもっと分かりやすい資料にして欲しい。また、パブリックコメントの結果は、それをどう反映したのか。	パブリックコメントでは、7人から54件の意見を頂戴した。パブリックコメントのほか、このような市民懇談会の意見なども審議会に報告し、反映して行きたい。
11万人を超える人口なのに7人の意見で適正と考えているのか。市民の声をどのように拾い上げ反映していくのが重要ではないか。	決して、パブリックコメントがすべてとは考えていない。市民ワークショップや市民意識調査、市民懇談会も含めさまざまな手法を取り入れている。
意見を聴く機会があったとしてもそれが反映されないと意味がない。どの取組み、意見、考えが反映されたのか市民にわかるようにしてほしい。【意見】	
中神土地区画整理事業は2021年度までに終了する予定と聞いたが、北ブロックの明確なスケジュールを出して欲しい。	現状は十分認識しているが、ブロックごとに段階的に実施していかなければならず、現在の駅前ブロックの見通しが立たないと次には移れない。市としての希望は提示できるが明確なものは困難である。
審議会の委員などについては、市のホームページで確認できるのか。	可能です。

(5) 第 5 回 公民館 3 階学習会議室

意 見	市側の回答
集合住宅で暮らす市民が 6 割近くで、今後 も増加していくことが予想される。集合住宅 に関する施策をきちんと位置づけて欲しい。	少子高齢化の影響が顕著に現れるのが集合 住宅であると考えており、ハード、ソフトの両 面からの対応が必要ではないかと認識してい る。
管理組合の役員経験が重要であり、その経 験の有無によっても違うが、審議会のメンバ ーに、集合住宅にお住まいの委員はいるの か。	全体を調べたことはないが、住所からは、少 なくとも 5 名は集合住宅に居住していると考 えられる。
昭和飛行機の土地を活用して発展してき ているが、まだ未利用地もある。今後の計画 は。	昭島駅の北側は昭和飛行機が大半の土地を 所有している。昭和飛行機の持つ計画と市の意 向、地域の考えなどの整合をはかりながら、ま ちづくりを進めることが重要であると考えて いる。
団地の真ん中をダンプカーなどが通るよ うな状況も見受けられる。計画的な道路整備 をお願いしたい。具体的な計画もあると聞い ているが。	総合交通体系の整備は、行政だけで解決でき るものではないので、全体のまちづくりの中で 一つ一つ解決して行きたい。新しい道路につい ては、昭和飛行機の意向もあり、現時点で具体 的にするのは難しい。
「あきしまらしさを育むまちづくり」とあ るが、漠然として分かりづらい。具体的に表 現しては。	審議会でも議論となったが、昭島らしさはこ れだと、なかなか具体的なもので言い切るこ とは難しい。第五次計画の中で昭島らしさをみん なで創り上げていこうという視点から、考えを 整理している。
昭島の水は胸を張って自慢できる。水関係 のイベントに参加したが、学識者から六甲の 水に次ぐものだとの話もあった。	ご指摘のとおり、昭島の水はすばらしいもの であり、まちづくりの核としていくべきだと考 えている。
平成 32 年度の想定人口が、現在と余り変 わらないようだが、現状から伸びていくの か。	これまでの人口動態などにに基づき、専門的に 分析した。市内の大規模な開発計画は考慮して いないが、2 千人程度の人口増を想定してい る。また、交流人口を増やしていくことも大切 であると認識している。
資源回収は成果がでているのか、自治会と して資源回収の奨励金をまちづくりの原資 としている。	廃棄物の資源化率は、多摩地区の中では平均 的な自治体となっており、その向上に努めて行 きたい。また、資源回収は、コミュニティや地 域活動の活性化の面も重要であると認識して いる。
退職した方が地域に帰ってくることに対 応して、人材育成の面からも、より魅力のある 市民大学として、その充実を図って欲しい。	現在の市民大学はゼミナール方式で実施し ており、これはこれで意味があるものと考えて いる。また、いろいろな講座を設けるなど、そ ういったこともニーズがあると受け止めている ので、別な面での充実も図って行きたい。

素案が実現すればすばらしいまちとなるが、カタカナ語が多い。解説をつけてはどうか。	カタカナ語は分かりにくいとの意見がある一方で、簡潔で分かりやすい記述となる場合もある。用語集は加えていく考えである。
自治会にはマンネリ化や加入率の低下という問題もある。自治会を活用し強化しようとしているのか、新たなNPOを重視するのか説明できると良い。	これからのまちづくりは行政だけでできるものではなく、市民や団体と一緒に協働していかなければならない。自治会というのは市内で一番大きな市民を巻き込んだ団体であり、引き続き、組織率の向上に向けた取組みを継続するとともに、連携し、協力しながらまちづくりを進めていく必要があると考えている。
どのようにして、昭島らしい文化や芸術を育成するのかが見えてこない。郷土資料館が整備できず、図書館が古いままなのは理由を説明しては。	図書館と郷土資料館については、第五次計画に引き継ぐこととなるが、第五次計画ではぜひとも実現したいと考えている。
介護保険で筋肉トレーニングなどの予防事業を実施しているが、参加人数が制限されている。予防につながることは実感しており、拡充に向けた前向きな取組みをお願いします。【意見】	
学校単位で防災訓練を実施している市もあるが、そうした取組みは。	全市的ではなく地域の発案からスポット的に実施しているケースはある。拡充が図れると良いとは考えている。
防災活動のボランティアとして防災訓練を実施した際、中学生に参加してもらった。中学生は実際の場合でも活躍できると思うので、教育委員会からも後押ししてもらえるとありがたい。【意見】	

市民意見・提案の募集 結果

- ◇ 「こんなまちにしたい」「こうしたらまちが生き生きする」など昭島市をより住みやすい魅力あるまちにするための意見・提案を、「広報 あきしま」紙上で募集したところ、現在までに 4 件の意見・提案がありました。頂戴した意見・提案の要旨は次のとおりです。

◎ 立川基地跡地に市立学校の建設を

市長は法務省施設（刑務所）の受け入れを決断されましたが、刑務所を持ってくると、世界に昭島ありと言えるように、将来的に世界をリードできる人の育成が重要と考えます。そのため、市立の小学校、中学校（小、中学校は 9 年制にする）、高等学校、大学校をつくることを提案いたします。

教育内容は、学校内ではすべて英語で行い。近くに横田基地があり、アメリカの良いところ、イギリス、フランスの良いところ、インドの数学教育のよいところ等研究し、教育の専門家の指導を受け、世界をリードできる人を育てることが大切です。

将来、教育の昭島と呼ばれ、自然と人が集まるようになり、市の活性化につながります。立川基地跡地に、ぜひとも市立学校を建設願いたい。

◎ 発達障害児への福祉の充実を

4 歳になる知的障害を抱える者です。現在、東京都内で、発達障害児の療育施設（発達センター）がない市は既に数える程しか残ってないのですが、その中に昭島市が含まれています。現在は 10 人に 1 人の割合で何らかの障害を抱える子供が存在すると聞きました。障害の症状は様々で、普通級の中でも、知的に問題が無くともコミュニケーション疾患を患っている為、友達や教師と上手く関係が築けない子供が増えているのが現状です。障害を持ちながら障害と診断されない「ボーダー」と呼ばれる子供達も増えています。「障害児だから財源を食い潰すばかりで役に立たない」と思っているのなら間違いです。老人福祉に着目し、障害のある子供達に介護福祉士の教育をしようという試みも始まっています。

昭島市としては「あいぽっく」の存在が福祉対応だと考えているようですが、保健士は医師でなく専門家でもありません。私を含め早期に子供の障害に気づき病院や療育施設に行った者は「昭島市は何もないから…」という失意から他の市へ支援を求めました。＜早期発見・早期療育＞が謳われている現在、昭島市の取り組みは水準以下の最低レベルです。もっと他の行政を見習い、研究して、市として取り組んでいくべきではないでしょうか。

◎ 多摩地区各市の現状分析（地域活性化）

世間では、人・地域による格差感を感じている人が拡大している。これは製造業の雇用が派遣に頼ることが大きく、恩恵にあずかれる者は限られており、更にこれまで地方経済を支えてきた公共事業が毎年３％ずつカットされ、地域経済が疲弊してきていることが主な原因をなしていると考ええる。

こういった背景のなかで、今住む三多摩地区各都市の実情を各種統計資料で探ってみたところ、経済と人口集中の進む区部と異なり、三多摩地区市町村の姿は多様で、全国の市町村に起きている問題が縮尺されて起きている。

地域の元気を現す指標として人口の伸び率を取り上げてみると、人口伸び率０に近い都市及びマイナスの都市は９都市ある。これらの都市を一覧にしてみると、国立市、多摩市以外はいずれも第３次就業率（サービス産業への就業率）が７０％以下であり、第３次就業率が大きな影響を及ぼしていることが分かる。

各都市の財政状況について、３年継続して収支マイナスの市町村をみると、これらの市町村はいずれも積立金を取り崩し赤字を補填している姿が分かる。これらの都市のなかには、前述の９市以外に、三鷹市、東村山市及び東大和市が入っている。

地域開発・まちおこしを進める方策は、企業誘致のような外部の力に頼る外発型と地域に蓄積された技術・産業・文化等の資源を住民が主体となって進めてゆく内発型がある。三多摩各都市とも地域振興・まちづくりには努力はしているが、主な動きを最近の新聞に報じられたものから見ると、圏央道インター周辺の開発や日産村山工場跡地への巨大商業施設の誘致など、内発的なものより、インパクトが大きい外発的なものに頼りがちな様子がうかがえる。

◎ 地下水 100%を守り、手続は自宅のパソコンで、「くじらパーク」の整備を

昭島市の「100％天然地下水」でおいしくて安全な水を、ずっと飲んでいけるようにしたい。また、スーパーなどで「昭島のおいしい水」を大量に販売すれば、全国に昭島市をアピールすることができます。

建物や道路を整備してきれいな住みよい街にしたい。ゴミ拾いなどのボランティアなども増やし、昭島市を水と緑のきれいな街にしたい。

また、市役所の手続などは、家庭のパソコンで可能となり、もちろん選挙などすべてが可能となればよいと考えます。

昭島くじらの発掘跡に巨大テーマパーク「くじらパーク」を整備して、全国から人をたくさん集め、国や都にアピールし、そこから沢山のお金をもらうことができれば、介護保険や医療保険等の赤字を解消することができます。